ふみがら

T O 生

BUFFARO. SOCIETY. OF ARTISTS には會長R.C.COXE氏の**ナイヤガラ**瀑布を描ける大なる油繪がある。非凡の作とは思はれないが、この繪のために精選したる彩料を遠く巴里から取よせ、それのみに六百弗も費したとの事であるから、繪に注意の屆いてゐるのには感服する。一體氏は油繪よりも**エッチング**の方が得意のやうに思はれる。**BUFFARO ART GALLERY.** は、美術會と同じく圖書館の樓上にあつて、規模小に陳列の繪畵もさまで多からず、大作と思はるゝものも少しはあるが、何分**カタロッグ**の用意すらなく、其上室內暗くして筆者の名前さへ讀めず、彫刻もまた指を折る程しか飾つてない。最も此地の富豪 **ALBRIGHT** 氏が壹百萬弗を投じていま市の公園地に畵堂を建築中で、この夏落成の上は移轉して更に多くの新畵をも加へるとのことである。新畵堂の位置は、廣さ約千**エークル**車道十七哩といふ大公園の西部、小高き丘の上で美しい湖水を前にした景勝の地である。建築の樣式は希臘風で、四方には大理石の巨柱を廻らし、其尤も大なるものは長さ三丈にあまり重量十六噸以上もある、內部は幾區劃にか分たれ、光線其他の設備は極めて行屆たもので、階下は不殘、美術學校の用に供せられてある。石も磨かれ內部も整ひ、幾多新古の名畵が陳列せられた曉はさだめて壯大の觀を呈することであらう。**バフワロー**のやうな小さな市には、實に惜しいやうな氣がする、歐米ではたゞ一人にてこのやうな大畵堂を作つて寄附する人もあり、又先祖傳來の繪畫彫刻の美術品を、一個人で私することなく惜氣もなくかゝる畵堂に寄贈する人も澤山あるので、自然に美術趣味も發達し進步してゆくのである、吾國でも少しくこの眞似をして貰いたものである。

此階下の美術學校は、既に授業を始めてゐる。生徒の製作に中々侮り難いものが澤山ある、參考品には世に得難きものも少くない、生徒はいま二百二三十人居るそうで、月謝は隨分高いが、朝から夜迄種々の組に分れていつ往つても勉强の出來るやうな仕組になつてゐる。

此市の **TRINITYCHARCH** に **JOHN LAFARGE** の**グラスモザイク**がある、氏は米國の人で、**グラスモザイク**に有名であるが、水彩畵もまた面白い。此會堂の中にも氏の作が澤山あるが、そのうちで教神の意ふ寓した人物畵は、曾て佛蘭西政府から望まれたとのことで、さすがに立派に見受けられた。他の諸作も敬服すべきものばかりであつた。

美術會の卓上には澤山の美術雜誌がある、そのうちで一寸面白そうなものを少し紹介しやう。

THE ART INTERCHANGE—NEW YORK

小なる繪が澤山ある。

L. ART PRATIQUE—MUNICH

獨文で、數枚の寫眞版が挿んである。

THE STUDIO—LONDON

三四葉の原色版と澤山の小畫あり一般美術に渉りて趣味廣く比較的廉價なり。

L' ART D'DCORATIF—PARIS

佛文粧飾美術を主とする大なる雜誌

GAZETTE

佛文にて着色畫一枚あり面白そうな雜誌

THE MAGAZINE OF ART—LONDON

立派な挿繪多く高尚なり

BRUSH AND PENCIL—CHICAGO

記事も豐富にしてアメリカ出版の雜誌としては上等の部なり、

THE ARTIST—LONDON

二三の彩色畫あり、よき雜誌なれどスタヂオよりは劣るやうなり。

COCORICC—PARIS

頗るハイカラの突飛な繪畫や圖案多し、但廢刊したとの噂あり

THE BROCHURE—BOSTON

建築及彫刻の記事多し

REVUE ILLUSTREE—PARIS

小畫澤山あり、批評專門の雜誌にして讀めたら有益ならん

其他露國、西班牙、伊太利等幾多の美術雜誌があるが、よくもわからず外見丈けではこれぞといふ程のものは見當らぬ（三十六年三月五日北米バフワローより）

△ △ △

子爵秋元興朝氏曰く、日本の名畫と西洋の名畫とを同じ處に對比して、自分を欺くことなく虛心平氣に其時の感じを表白して見たなら其優劣は直ぐに決せられる、日本畫固有の特色を維持してゆかうとすれば不條理な繪を甘じなければならぬ、處がそれは時代が許さぬ、さればとて折衷は思ふ程の成功を期し難い、されば何も迷ふことはいらぬ、一躍して洋畫に入るの外はないと思ふ、洋畫に據つて入神の技に達する、日本將來繪畫の發展の道は此外に出でぬことと私は信じてゐる云々（太陽）

△ △ △

雲の組織を正確に驗するには、雲そのものを直接に眺めずして黑き鏡に映りたるその像を見るとよい、此法を用ふるときは、太陽の方位にある薄き雲も充分に視察が出來るし、太陽の像すら不愉快なしに眺むることが出來ると氣象集志にあり、吾々が雲を研究する上にも此方法は便利なるべく、鏡は畫學用の調子鏡を其儘用ふることを得べし。

○人と異つた事をやらうといふには、元來規則で束縛したり、自分の腦力を使ふ方法を敎へずに、他人の手腕、他人の頭腦から出た製作を、無暗と寫させたり、其人の性質、嗜好、目的に頓着なく、誰も彼も同じ機械で製造しやうといふやうな古流の畫學校に近寄らぬやうにせねばならぬ。（名家訓言）